

中項目30の順位

- 1. 住宅 165件(12.7%)
- 2. 鉱業 154件(11.8%)
- 3. 道路・橋梁 131件(10.1%)
- 4. 軍事・戦時 89件
- 5. 醸造業 79件
- 6. 農業 70件
- 7. 教育・学校 63件
- 8. 宗教 56件
- 9. 鉄道 53件
- 10. 発電・電気 51件

合計 911件(69.9%)

市町村名	第一次	第二次	第三次	交通土木	生活文化	軍事等	計	%
東予								
四国中央市	0	15	0	19	22	1	57	4.4
新居浜市	0	82	2	17	6	0	107	8.2
西条市	7	15	2	29	23	9	85	6.5
今治市	12	71	6	50	91	23	253	19.4
上島町	4	8	2	9	24	3	50	3.8
計①	23	191	12	124	166	36	552	42.4
中予								
松山市	2	15	9	40	34	20	120	9.2
東温市	7	1	0	8	10	2	28	2.1
伊予市	6	10	2	3	11	0	32	2.5
松前町	1	4	0	3	1	0	9	0.7
砥部町	1	7	0	1	2	0	11	0.8
久万高原町	4	2	5	33	5	1	50	3.8
計②	21	39	16	88	63	23	250	19.2
南予								
内子町	9	14	4	10	24	2	63	4.8
大洲市	3	11	8	18	34	1	75	5.8
八幡浜市	8	27	12	13	13	2	75	5.8
伊予町	7	9	0	13	19	13	61	4.7
西予市	5	10	5	26	27	0	73	5.6
宇和島市	9	16	6	33	35	4	103	7.9
鬼北町	0	1	0	4	6	0	11	0.8
松野町	1	6	1	2	4	2	16	1.2
愛南町	3	4	1	3	7	6	24	1.8
計③	45	98	37	122	169	30	501	38.4
計①+②+③	89	328	65	334	398	89	1,303	
%	6.8	25.2	5.0	25.6	30.5	6.8		100.0

表 市町別大項目産業別遺産数 (愛媛県の近代化遺産 P12)

に関わるもので3割。全体の数は1,300です。それから「交通土木」と「第二次」で25%ぐらいずつですから、「第二次」「交通土木」「生活文化」で8割方を占めることが分かるかと思います。

いろいろな見方があるわけですが、東予、中予、南予で見ていくとどうなるかというと、まず東予の方からいきますと、今治市が一番多く、それも各産業に応じてほしい多いわけです。新居浜市は「第二次」が多く、別子銅山がかなり貢献しているわけです。それぞれ個別に見ていくと地域的な特徴が出ています。

中予の場合は、松山市も「第三次」「交通土木」「生活文化」「軍事」等が分散して多い。久万高原では「交通土木」が多い。これは内訳でみると、コンクリートのアーチ橋とか発電所の多いことが分かり、それぞれ特徴があります。

南予は何が多かったかというと、「軍事遺産」とか「交通土木」が多かったかと思いますが。宇和島市が、「第一次」「交通土木」「生活文化」。八幡浜市では「第一次」と「第三次」。内子町は「第一次」が多いとか。このように都市別、産業別に見ていきますと、各都市の特徴が分かります。

今回新しく見つかった物件で、こういったものが特徴的に出てきたのかということ、第一次産業に面白い遺産がいくつかありました。水路は興味深いことに、東予、中予、

南予でそれぞれ江戸から近代にかけてのものが見つかりました。野井戸群とか外山のミカン小屋群、船倉というものもありました。伊方町には、青石の防波堤や護岸群があり、「こんなものがあったの!」というように、他県では見られない興味深い遺産が数々見つかりました。

第二次産業関係では、(酒屋さんを含む)醸造業や鉱業遺産は、県内に広く分布しています。鉱業遺産は新居浜だけではなく、実は県内全域に分布しています。

あと長州大工のつくった、彫刻を含めた形での建造物。「交通土木」では、前回でも分かっていたのですが、今回さらに愛媛県の特徴のひとつであるコンクリート・アーチ橋がいくつか見つかりました。前回の報告書では重信川砂防堰堤を誰が設計したのかははっきりしなかったのですが、今回これは、「わが国砂防の父」といわれる赤木正雄が設計したものだということが分かりました。あと、宮本武之輔。彼の残した遺産というのは別にはないわけですが、実は宮本武之輔は土木界の人物としては非常に有名な人なんです。ご存知の方がいたかも知れませんが、愛媛県の興居島出身の人だということが分かりまして、今回、宮本武之輔の胸像が出身地につくられたということがメディアで報道されました。

III. 特徴的な物件の紹介



劈巖透水路 (西条市)

劈巖透水路は、「伊予の青の洞門」ともいわれています。現在、全体の距離はそんなに長くはないかもしれませんが、これを手彫りでやるとなると、話がちがってきます。非常にすごいものということになります。鑿(のみ)と玄翁(げんのう)で岩を削って造られたもので、現在はところどころ補修されています。今回、新たにリスタアップしました。